

「災害時に必要なものを考える」 ワークショップの様子

ワークショップには、中学生～高齢者まで、様々な年齢の方に参加して頂き、一時間という限られた時間の中で、実際に「災害時に必要なもの」を考えて買ってくるという事前課題の紹介、自己紹介、グループワーク、発表を楽しく行って頂くことができました。グループワークでは、活発な意見交換が見られ、異なる年代の方と交流する良い機会になったのではないのでしょうか。もちろん楽しいだけでなく、ワークショップに関するアンケートでは、災害に対する意識が高まった人、災害時に役立つ知識が得られた人が86%おり、今後災害時に必要な物を購入する等、何か行動を

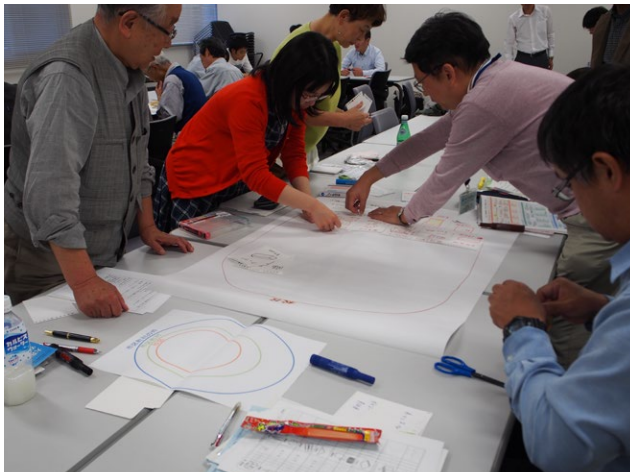
起こしたい人が90%いました。今回のワークショップが、「災害時に必要なもの」の備蓄を身近に感じ、実際に行動を起こすきっかけになれば幸いです。

「災害時に必要なもの」の 備蓄率・使用率(アンケート結果)

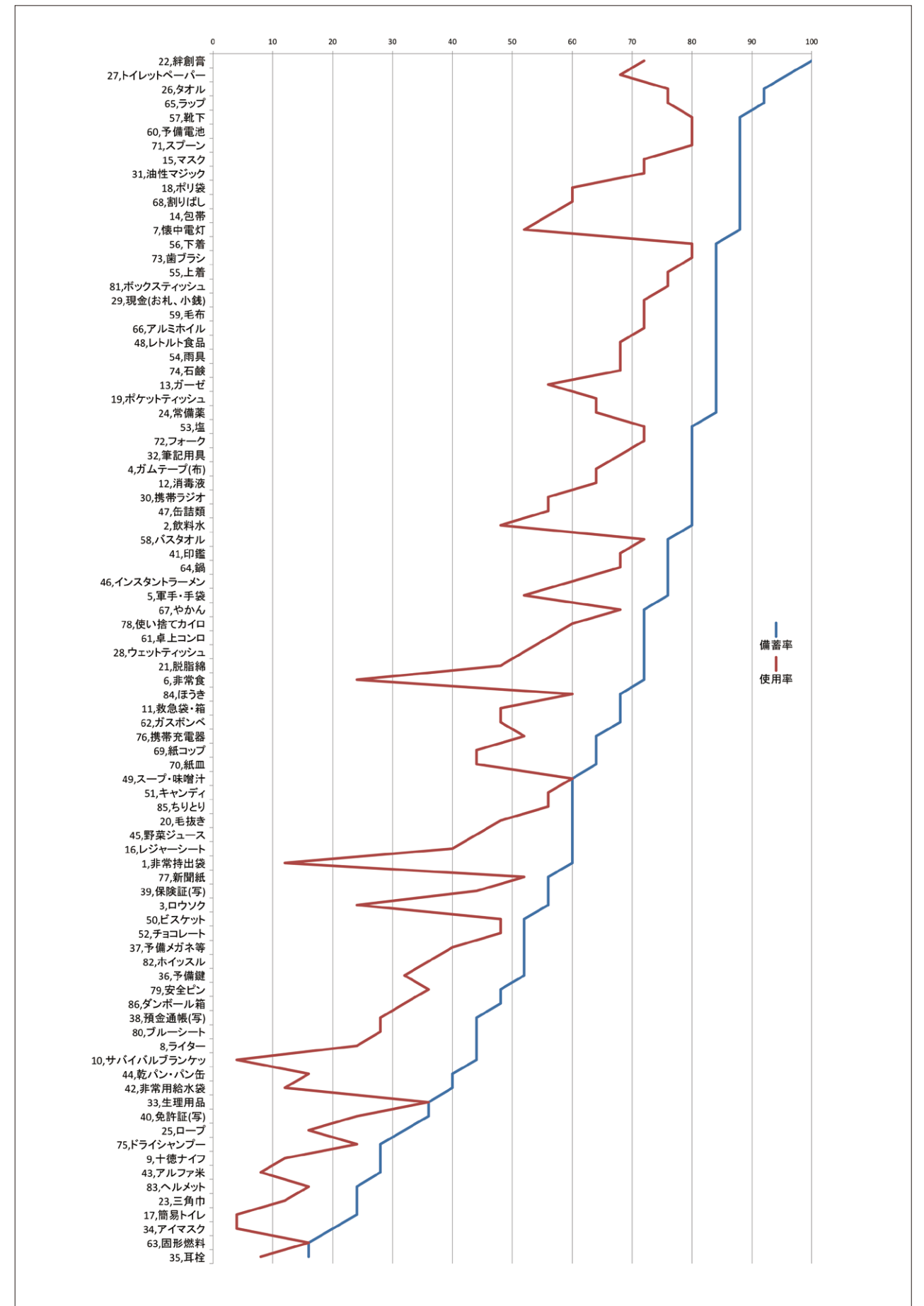
各品目の備蓄率を見ると、日常的によく使う・時々使うようなもので備蓄率が比較的高い傾向にあり、なくても良いもの・代用可能といったものは備蓄率が低い傾向にありました。物によって使用率も異なるため、備蓄の置き場所を検討する際には、その点も考慮する必要がありますかと思えます。



第一回目の様子(左:グループワーク、右:発表)



第二回目の様子(左:グループワーク、右:発表)



アンケートで備蓄・使用しているかを聞いた86品目の備蓄率と使用率